

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「宇治拾遺物語「児のそら寝」問題

今は昔、比叡の山に児^①あり^アけり。僧たち、宵のつれづれに、「いざ、かいもちひ^②せ^イん。」と^③言ひ^ウけるを、この児、心よせに^④聞き^エけり。さりとて、^⑤し出ださ^オんを^⑥待ちて^⑦寝^カざら^キんも、わろかりクな^ケんと^⑧思ひて、

片方に^⑨寄りて、^⑩寝^コたるよしにて、^⑪出で来るを^⑫待ち^サけるに、すでに^⑬し出だし^シたるさまにて、
^⑭ひしめきあひ^スたり。

この児、さだめて^⑯おどろか^セさんず^ラんと、^⑯待ちみ^タたるに、僧の、「^⑰もの申しお^ハくは^チん。

^⑲おどろか^セたまへ。」と^⑳言ふを、うれしとは^㉑思^ヘども、ただ一度に^㉒いらへ^テんも、^㉔待ち^トけるかともぞ

^㉕思ふとて、いま一声^㉖呼ば^ナれて^㉗いらへ^ニんと、^㉘念じて^㉙寝^ヌたるほどに、「や、な^㉚起^コし^㉛たてまつりそ。

をさなき人は、^㉒寝^入り^㉓たまひ^ネに^ノけり。」と^㉔言ふ声の^㉕し^ハければ、あな、わびしと^㉖思^ヒて、

いま一度^㉗起^こせかしと、思ひ寝に^㉘聞^けば、ひしひしと、ただ^㉙食^ひに^㉚食^ふ音の^㉛し^ヒければ、ずちなくて、

無期ののちに、「えい。」と^㉒いらへ^フたり^ハければ、僧たち^㉓笑^ふこと限りなし。

